

2016年3月期 第2四半期決算

# 説明資料

株式会社 **トクヤマ**

2015年10月30日



# CONTENTS

- 1 2016年3月期 第2四半期決算
- 2 2016年3月期 業績予想修正
- 3 トピックス
- 4 補足資料

# ① 2016年3月期 第2四半期決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高  
／営業利益
3. 営業利益増減分析

# 1. 決算概要

連 結 (前年同期比)

(億円未満切捨て)  
(億円)

	2015年 3月期 第2四半期累計	2016年 3月期 第2四半期累計	増 減	
			金額	%
売上高	1,438	1,491	+52	+4
営業利益	105	75	△30	△29
経常利益	82	52	△30	△36
親会社株主に帰属する 当期純利益	△805	27	+832	-
1株当たり当期純利益(円)	△231.40	8.00		
為替(円/\$)	103	122		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	70,400	48,000		

## 定性情報(前年同期比)

(売上高) 1,491億円(4%増)

増収要因: ソーダ灰、塩化カルシウム、太陽電池用多結晶シリコンなどの販売数量増

減収要因: 国産ナフサ価格下落に伴う石化製品の販売価格軟化

(営業利益) 75億円(29%減)

増益要因: 国産ナフサ価格下落や円安の影響による石化製品の損益改善

減益要因: トクヤママレーシアの減価償却費増

# 1. 決算概要

連 結 (前年同期比)

(億円)

	2015年 3月期 第2四半期累計	2016年 3月期 第2四半期累計	増 減	
			金額	%
売上高	1,438	1,491	+52	+4
営業利益	105	75	△30	△29
経常利益	82	52	△30	△36
親会社株主に帰属する 当期純利益	△805	27	+832	-
1株当たり当期純利益(円)	△231.40	8.00		
為替(円/\$)	103	122		
国産ナフサ価格 (円/kg)	70,400	48,000		

## 定性情報(前年同期比)

(経常利益) 52億円(36%減)

減益要因: 営業利益の減少

(親会社株主に帰属する当期純利益) 27億円(黒字転換)

減益要因: 経常利益の減少、税金費用の増加

増益要因: 特別損益の改善(前年同期はトクヤママレーシアにおいて減損損失計上)

# 1. 決算概要

## 連 結（前期末比）

（億円）

	2015年 3月末	2015年 9月末	増 減
総資産	5,545	5,318	△226
自己資本	1,625	1,639	+14
自己資本比率	29.3%	30.8%	+1.5ポイント
有利子負債	2,831	2,658	△173
D/Eレシオ	1.74	1.62	△0.12
ネットD/Eレシオ*	1.03	1.00	△0.03
1株当たり純資産(円)	467.36	471.42	

### 定性情報(前期末比)

(総資産)

減少項目： 有利子負債返済に伴う現預金の減少

(自己資本)

増加項目： 当期純利益計上に伴う利益剰余金の増加

(有利子負債)

減少項目： 長期借入金及び社債の減少

\*ネットD/Eレシオ：(有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託)／自己資本

## 2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

(億円)

	2015年3月期 第2四半期累計		2016年3月期 第2四半期累計		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	439	24	440	36	+0	+0	+11	+47
特殊品	241	27	267	△29	+26	+11	△56	—
セメント	386	22	425	22	+38	+10	+0	+3
ライフアメニティー	300	25	289	36	△11	△4	+10	+39
その他	249	26	267	25	+18	+8	△1	△6
計	1,617	126	1,691	90	+73	+5	△36	△28
セグメント間消去・ 全社費用	△179	△20	△199	△15	△20	—	+5	—
連結決算	1,438	105	1,491	75	+52	+4	△30	△29

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(参考)

トクヤママレーシア	—	△5	36	△64	+36	—	△59	—
-----------	---	----	----	-----	-----	---	-----	---

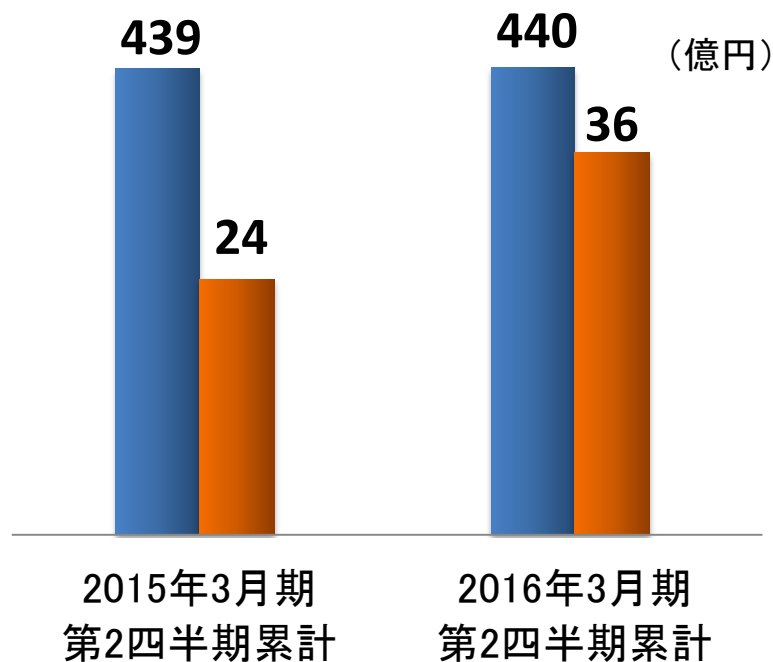
## 2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

### 化成品

### 増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益



### 定性情報

- (苛性ソーダ)
  - ・販売価格の軟化による減収
- (塩ビモノマー)
  - ・国産ナフサ価格の下落に伴う原料コストの減少による損益改善
- (塩ビ樹脂)
  - ・サプライチェーンにおける在庫調整による販売数量減
- (ソーダ灰・塩化カルシウム)
  - ・トクヤマ・セントラルソーダ営業開始による増収



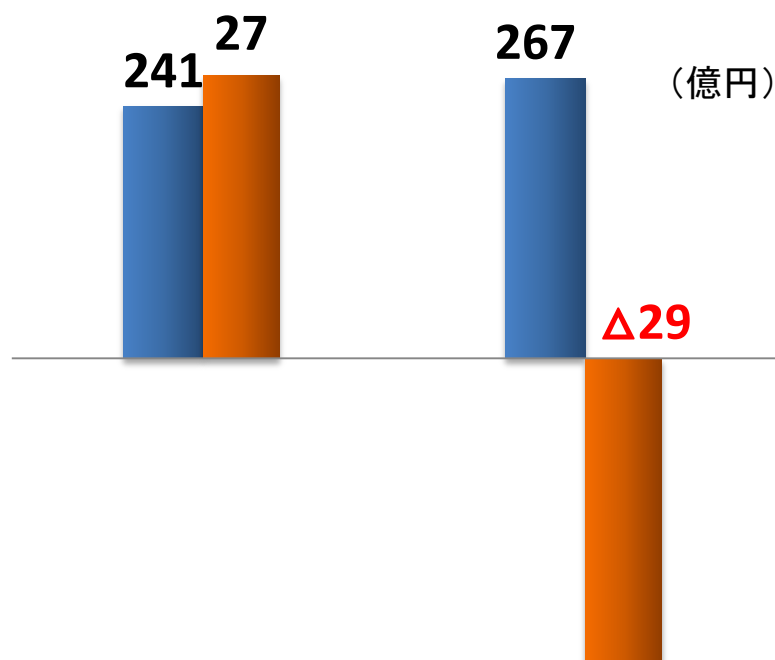
## 2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

### 特殊品

増収赤字転落

■ 売上高 ■ 営業利益



2015年3月期  
第2四半期累計

2016年3月期  
第2四半期累計

### 定性情報

(半導体用多結晶シリコン)

- ・スマートフォンなど携帯端末の需要は堅調なもの、サプライチェーンの在庫調整により販売数量減

(太陽電池用多結晶シリコン)

- ・トクヤママレーシアからの出荷開始により、販売数量は増加したものの、減価償却費増により損益悪化

(乾式シリカ)

- ・半導体用研磨材向けを中心に販売数量増

(電子工業用高純度薬品)

- ・半導体製造向けに販売が堅調に推移し増収

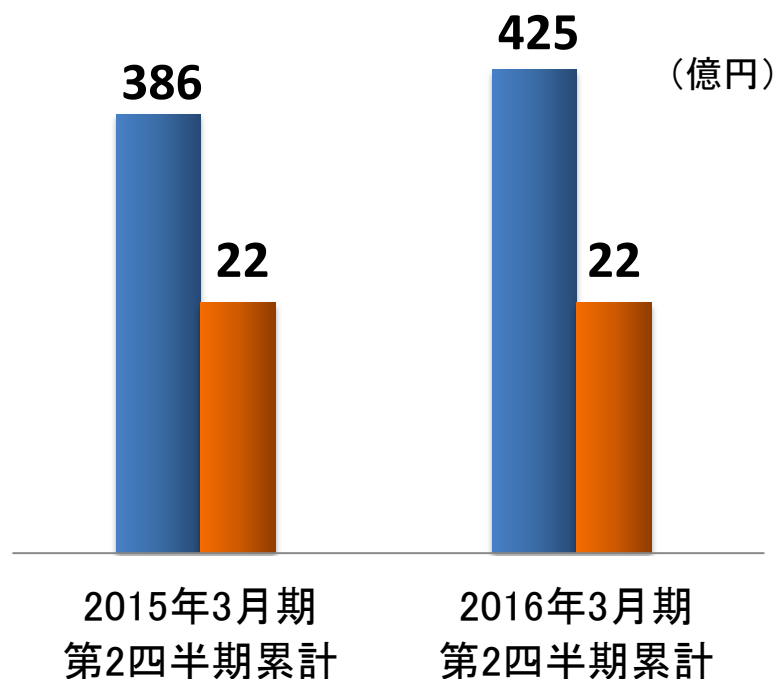
## 2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

セメント

増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益



定性情報

(セメント)

- ・公共工事の減少、天候不順による工事遅れ等の影響で国内販売数量減
- ・大型案件向けに生コン等の販売数量増

(資源環境事業)

- ・建設発生土などの廃棄物受入数量増

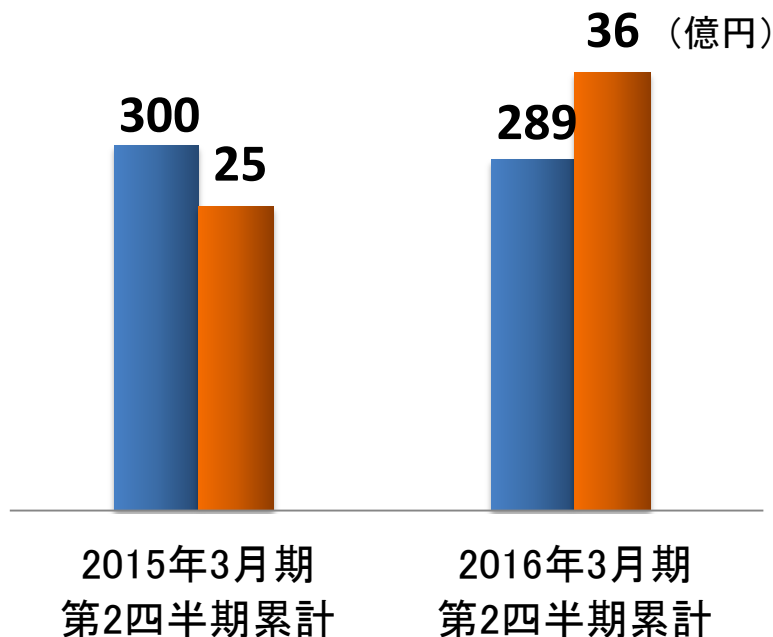
## 2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

### ライフアメニティー

減収増益

■ 売上高 ■ 営業利益



### 定性情報

(医薬品原薬)

・ジェネリック医薬品向けの販売数量減

(プラスチックレンズ関連材料)

・フォトクロミック材料の販売数量増

(微多孔質フィルム)

・紙おむつ向けの販売数量増

(ポリオレフィンフィルム)

・コンビニ向けを中心に販売数量増

・原料価格下落に伴う販売価格の軟化

(歯科器材)

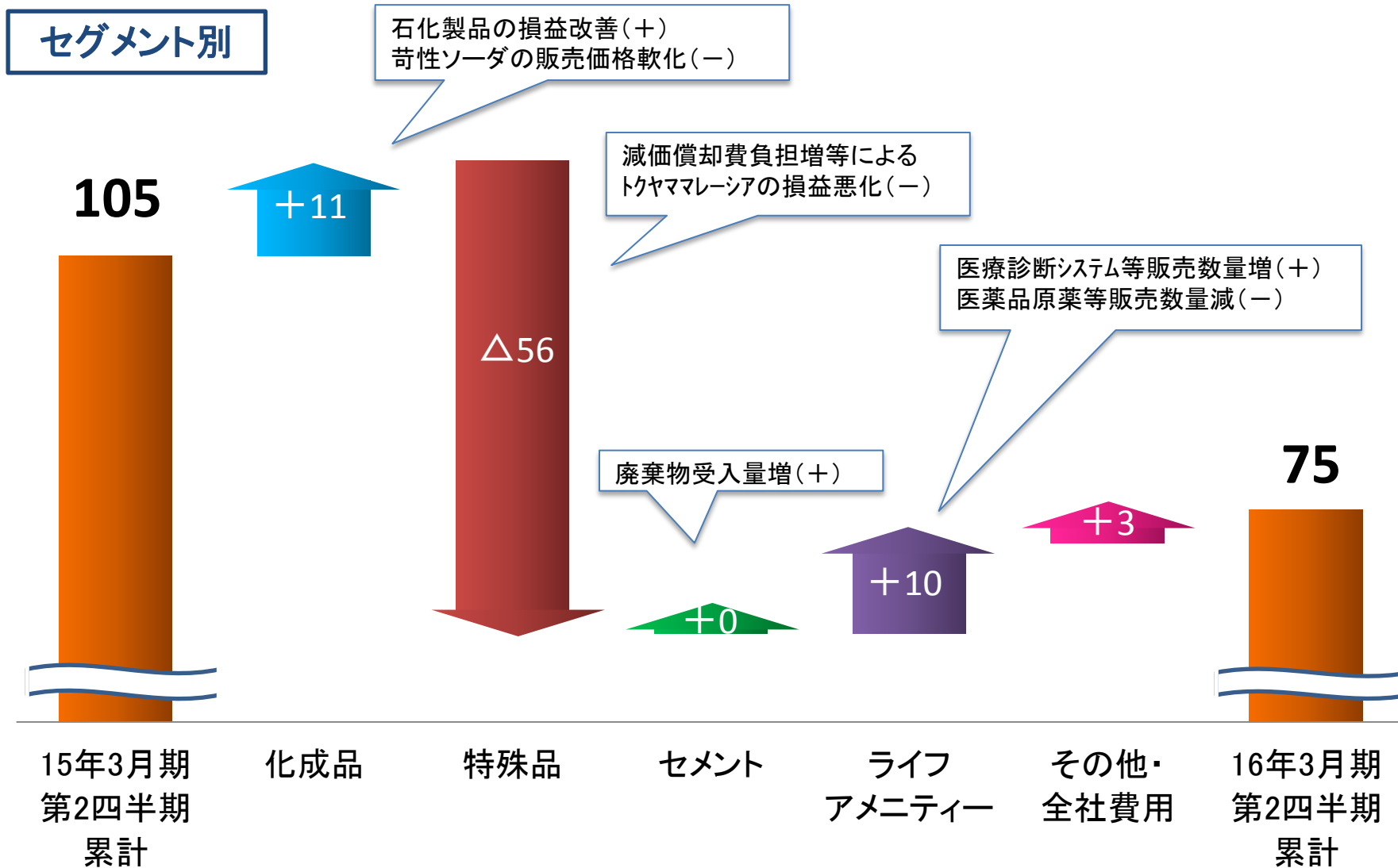
・新製品、海外向けの販売数量増

(医療診断システム)

・血液検査向けに販売数量増

# 3. 営業利益増減分析

(前年同期比) (億円)



## **2** 2016年3月期 業績予想修正

- 1. 業績予想修正**
- 2. セグメント別業績予想修正**



# 1. 業績予想修正 連結（前回予想比）

(億円)

	2016年3月期 予想(7/31公表)	2016年3月期 予想(10/30修正)	増減
売上高	3,090	3,060	△30
営業利益	180	200	+20
経常利益	120	140	+20
親会社株主に帰属する 当期純利益	60	140	+80

2016年3月期 第2四半期累計
1,491
75
52
27

1株当たり当期純利益(円)	17.25	40.25
為替(円/\$)	124	121
国産ナフサ価格(円/kg)	50,900	44,000

8.00
122
48,000

## 修正の理由

(売上高)

減収要因: 国産ナフサ価格下落による石化製品の販売価格軟化

(営業利益)

増益要因: 国産ナフサ価格下落による石化製品の損益改善

(経常利益)

増益要因: 営業利益の増加

(親会社株主に帰属する当期純利益)

増益要因: 固定資産の譲渡に伴う売却益の計上

## 2. セグメント別業績予想修正 (前回予想比)

(億円)

	2016年3月期予想 (7/31公表)		2016年3月期予想 (10/30修正)		増 減		2016年3月期 第2四半期累計	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	900	60	870	75	△30	+15	440	36
特殊品	650	△10	630	△15	△20	△5	267	△29
セメント	810	55	840	60	+30	+5	425	22
ライフアメニティー	580	60	580	60	0	0	289	36
その他	550	45	550	50	0	+5	267	25
計	3,490	210	3,470	230	△20	+20	1,691	90
セグメント間 消去・全社費用	△400	△30	△410	△30	△10	0	△199	△15
連結決算	3,090	180	3,060	200	△30	+20	1,491	75

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(参考)

トクヤママレーシア	96	△112	96	△112	0	0	36	△64
-----------	----	------	----	------	---	---	----	-----

### ③ トピックス

- ・事業収益力強化の取り組み
- ・トクヤママレーシア
- ・財務基盤の再建





## 事業収益力の強化の取り組み

### 資産の徹底活用

- ・多結晶シリコンの休止中製造設備の再稼働準備を開始  
(16年度稼働予定)
- ・ソーダ灰製造プラントのプロセス見直しによる生産性向上  
(フル稼働ベースの15年度生産予算比約10%増)



### 顧客起点による成長

- ・フィルム事業のグループ会社サン・トックス(株)が、事業の強化・発展を目的に、レンゴー(株)を引受先とする第三者割当増資を2015年10月8日付で実施  
(増資後の資本構成: (株)トクヤマ80%、レンゴー(株)20%)

サン・トックス(株)の概要  
資本金: 16億円(増資前)  
売上高: 189億円(15/3期)  
事業内容: ホリオレフィンフィルムの製造・販売

## トクヤママレーシア

### 第1期プラント(PS-1)

・有効活用策を検討中

### 第2期プラント(PS-2)

・15年10月からの定期修繕で、生産性向上の改良工事を実施中(15年12月再稼働予定)

トクヤママレーシア単体収益計画 (億円)

	15/3実績	16/3予想*
売上高	43	96
営業利益	△43	△112

\*10/30修正(7/31公表値からの変更なし)

## 財務基盤の再建

渋谷金王ビルなど2件の固定資産売却を決定。総額で約85億円の譲渡益を、2016年3月期第3四半期・第4四半期において特別利益として計上予定。

\*本件に関する詳細は、2015年9月25日に公表した「固定資産の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」をご参照ください

今後も社有社宅等の資産や投資有価証券等の売却を進め、有利子負債の返済原資を確保し、財務基盤の早期回復を図る。

Chemistry with a heart

**TOKUYAMA**





## 4 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)
2. キャッシュ・フローの状況
3. 営業外損益の内訳
4. 特別損益の内訳
5. 主要指標
6. 業績推移
7. 主要原燃料価格推移
8. 設備投資額・減価償却費推移
9. 有利子負債残高推移
10. 業績予想修正(上期・下期)
11. 主要グループ会社売上高
12. 多結晶シリコン市場動向
13. 太陽電池市場動向

# 1. 連結財務諸表(要約)

## 損益計算書

(億円)

	2015年 3月期 第2四半期	2016年 3月期 第2四半期	増減	
			金額	%
売上高	1,438	1,491	+52	+4
売上原価	1,020	1,101	+81	+8
販管費	312	313	+1	+0
営業利益	105	75	△30	△29
営業外損益	△23	△22	+0	-
経常利益	82	52	△30	△36
特別損益	△879	6	+885	-
税前当期純利益	△796	59	+855	-
法人税等	8	31	+22	+255
親会社株主に帰属する 当期純利益	△805	27	+832	-

4 補足資料

# 1. 連結財務諸表(要約)

## 貸借対照表

(億円)

	2015年 3月末	2015年 9月末	増減	
			金額	%
資産合計	5,545	5,318	△226	△4
流動資産	2,439	2,294	△145	△6
有形固定資産	2,533	2,483	△50	△2
無形固定資産	97	82	△15	△16
投資その他の資産	474	459	△15	△3

	2015年 3月末	2015年 9月末	増減	
			金額	%
負債合計	3,850	3,607	△242	△6
流動負債	1,172	1,156	△16	△1
固定負債	2,677	2,451	△225	△8
純資産合計	1,694	1,710	+16	+1

4 補足資料

## 2. キャッシュフローの状況

連 結

(億円)

	2015年 3月期 第2四半期 累計	2016年 3月期 第2四半期 累計
営業活動によるキャッシュ・フロー①	165	102
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△294	△62
フリー・キャッシュ・フロー③(①+②)	△129	40
財務活動によるキャッシュ・フロー④	531	△178
現金及び現金同等物に係る換算差額⑤	2	△1
現金及び現金同等物の増減額⑥(③+④+⑤)	405	△139
現金及び現金同等物の期首残高⑦	699	1,161
連結の範囲変更及び連結子会社の決算期変更に伴うに伴う増減額⑧	0	0
現金及び現金同等物の期末残高⑨(⑥+⑦+⑧)	1,104	1,021

4 補足資料

### 3. 営業外損益の内訳

連 結  
(前年同期比)

(億円)

		15年3月期 第2四半期 累計	16年3月期 第2四半期 累計	差損益	備 考	
営業外収益	受取利息・配当金	3	3	△0		
	その他	11	15	+3	為替差益	+4
	計	15	18	+3		
営業外費用	支払利息・社債利息	23	24	△0		
	その他	15	17	△2	試作費用増	△3
	計	38	41	△2		
営業外損益		△23	△22	+0		

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている



4 補足資料

# 4. 特別損益の内訳

連 結  
(前年同期比)

(億円)

	15年3月期 第2四半期 累計	16年3月期 第2四半期 累計	差損益	備 考
特 別 利 益	0	14	+13	購入契約損失引当金戻入額 +12
特 別 損 失	879	7	+872	固定資産減損損失減 +753 購入契約損失引当金繰入額減 +112
特 別 損 益	△879	6	+885	

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

# 5. 主要指標①

連 結  
(前年同期比)

		2015年3月期 第2四半期累計		2016年3月期 第2四半期累計		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	223	42	53	27	△169	△14
減価償却実施額	億円	80	50	104	52	+23	+2
研究開発費	億円	44	32	44	32	+0	+0
金融収支	億円	△19	+21	△20	+12	△1	△8

## 5. 主要指標②

連 結  
( 前 期 末 比 )

		2015年3月末		2015年9月末		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
有利子負債	億円	2,831	2,626	2,658	2,476	△173	△150
期末人員	人	5,852	1,970	5,818	1,933	△34	△37

# 5. 主要指標③

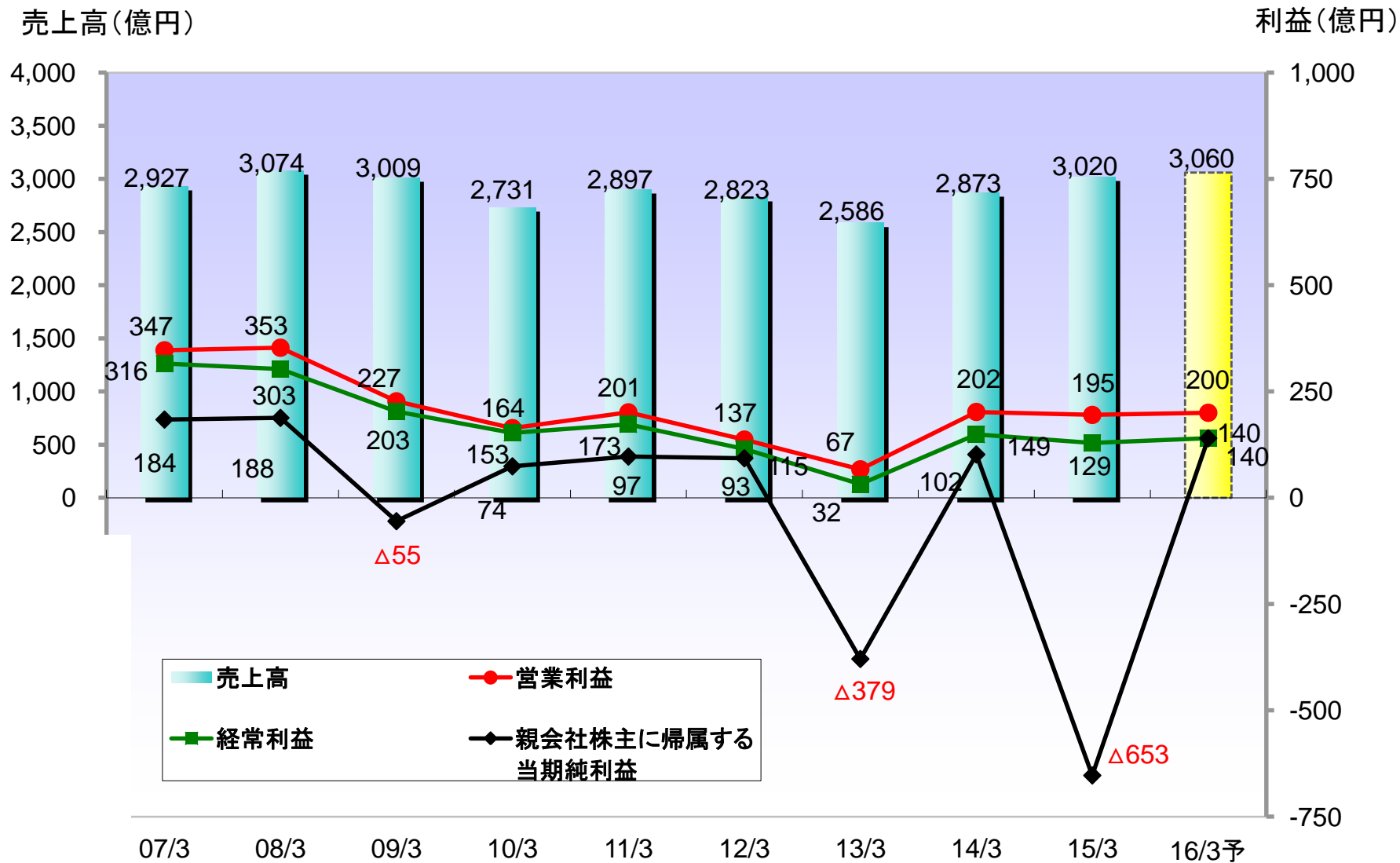
連 結  
(予想の前期比)

(億円)

		2016年3月期 予想		2015年3月期 実績		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	認可枠合計	189	100	-	-	-	-
	見込(16.3期) 実績(15.3期)	173	90	253	83	△79	+7
減価償却費		215	109	188	104	+27	+4
研究開発費		93	67	101	78	△8	△10

# 6. 業績推移

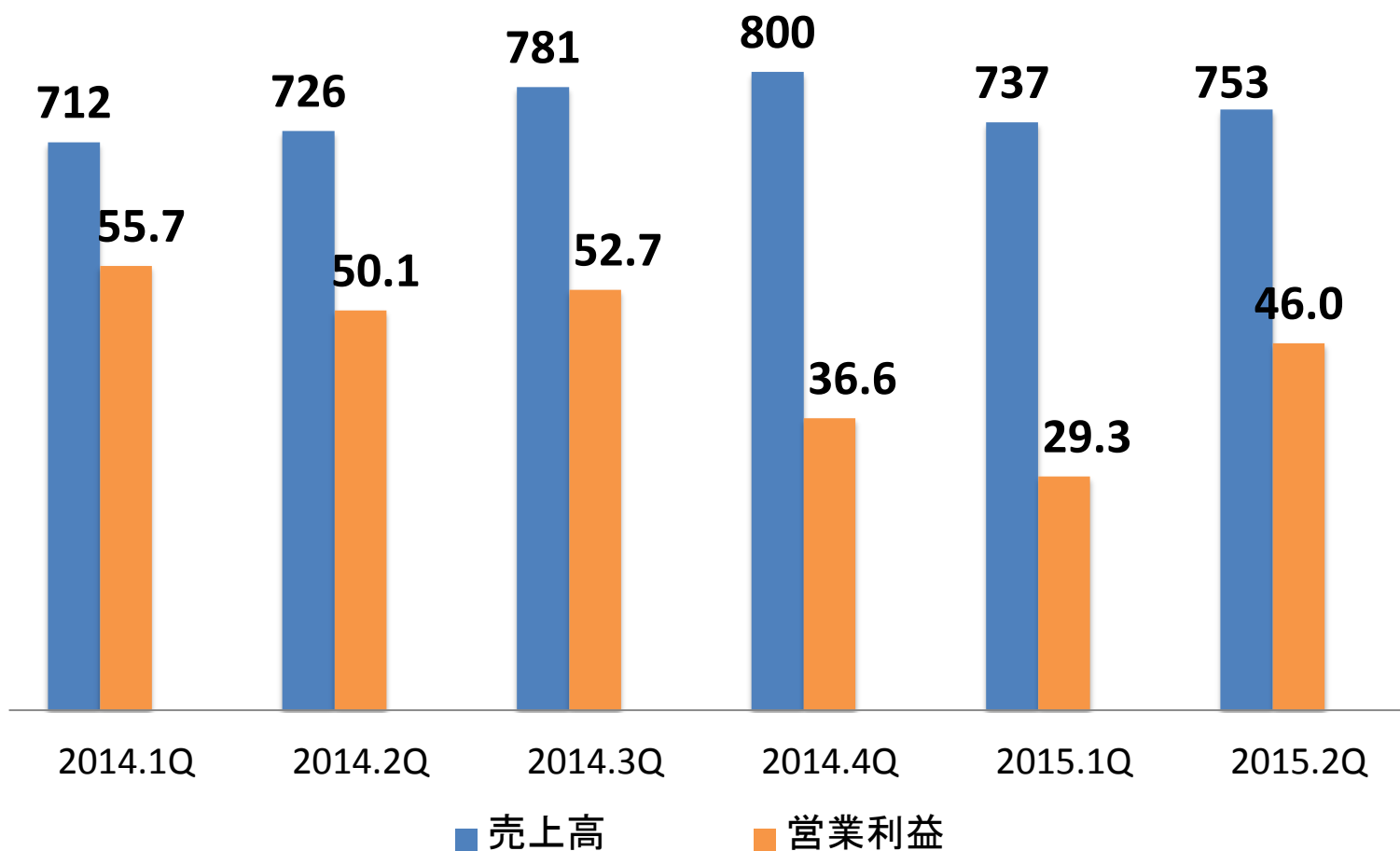
連 結 ( 通 期 )



## 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

連結

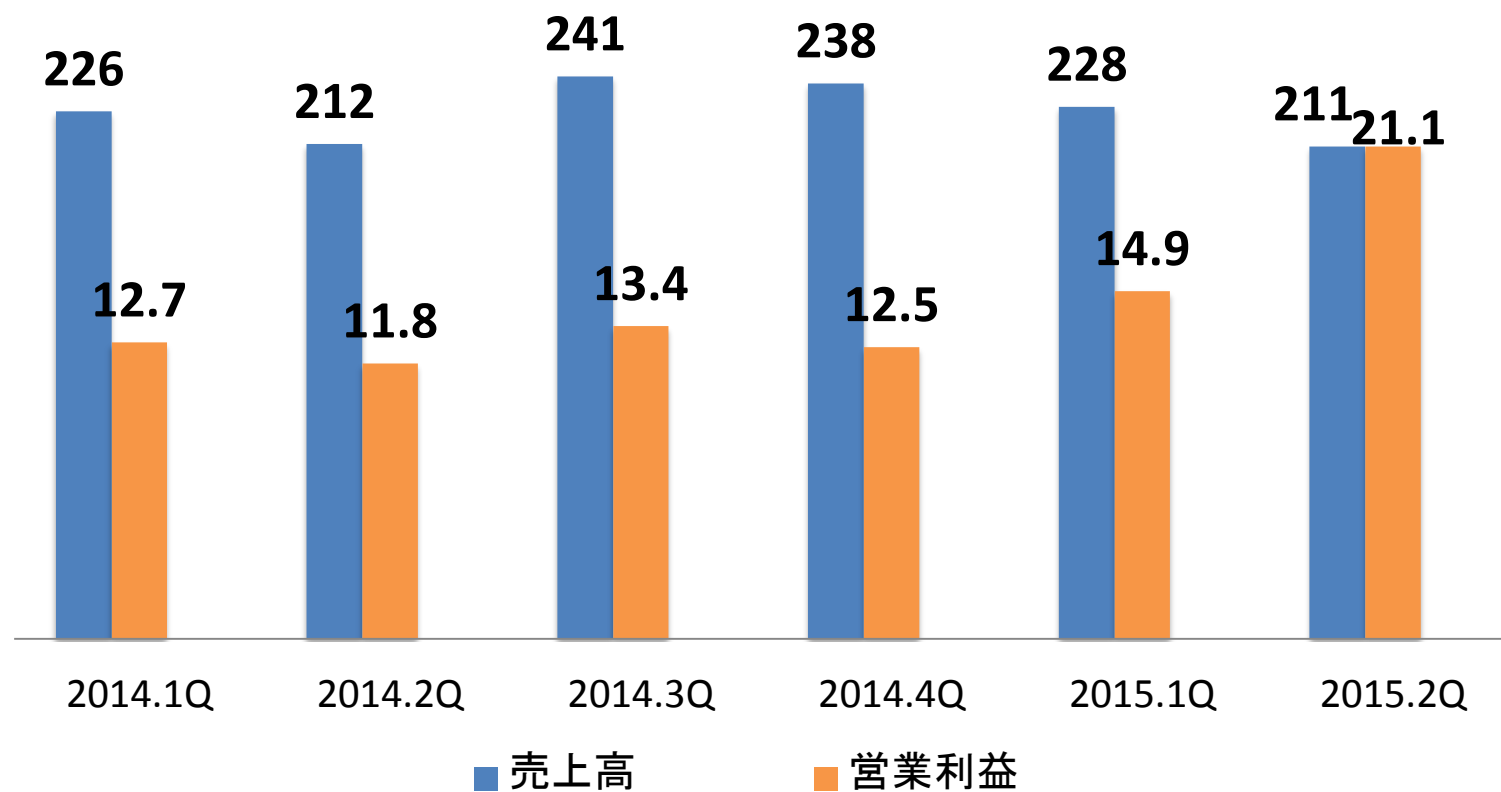
(億円)



## 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

### 化成品

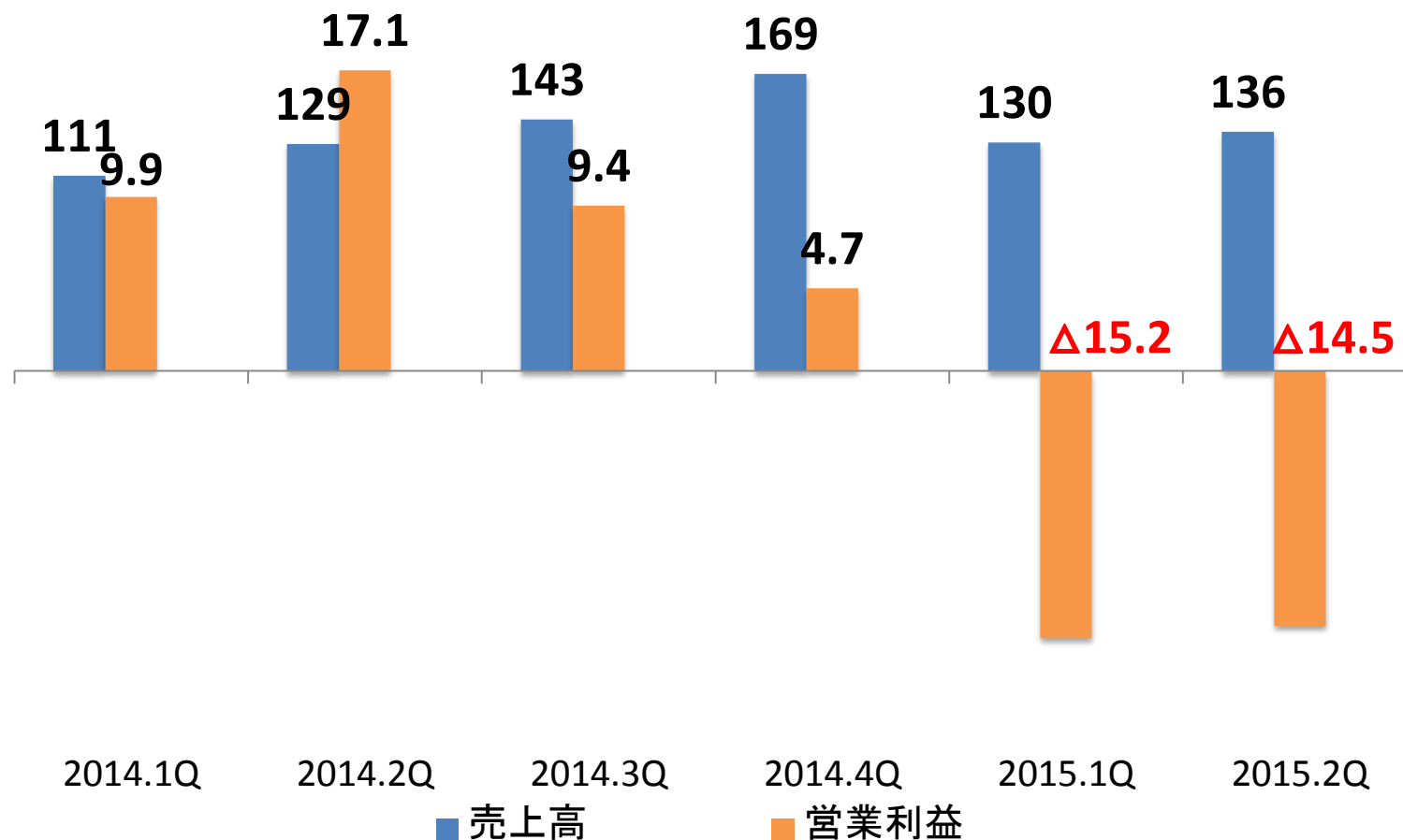
(億円)



# 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

## 特殊品

(億円)

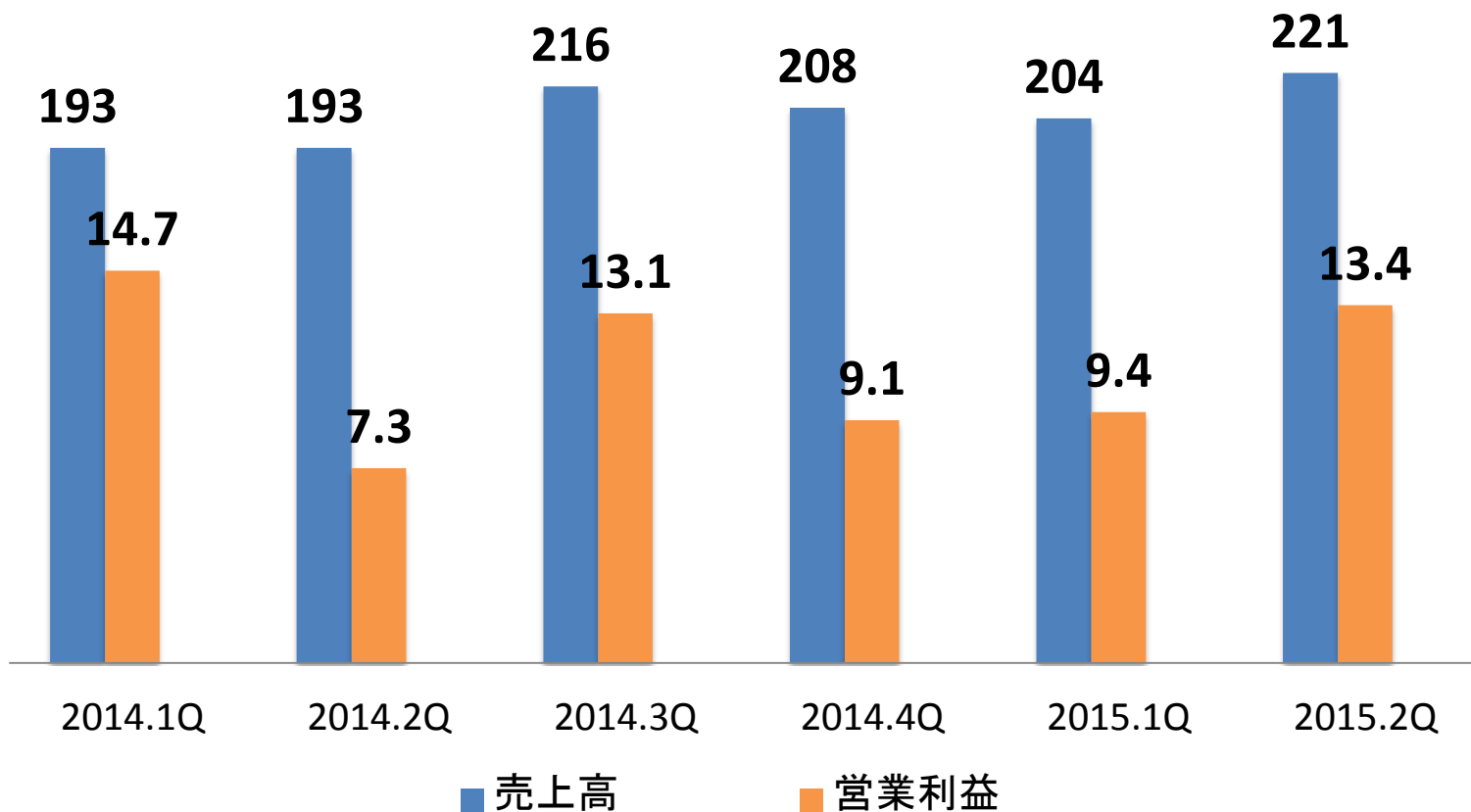




## 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

### セメント

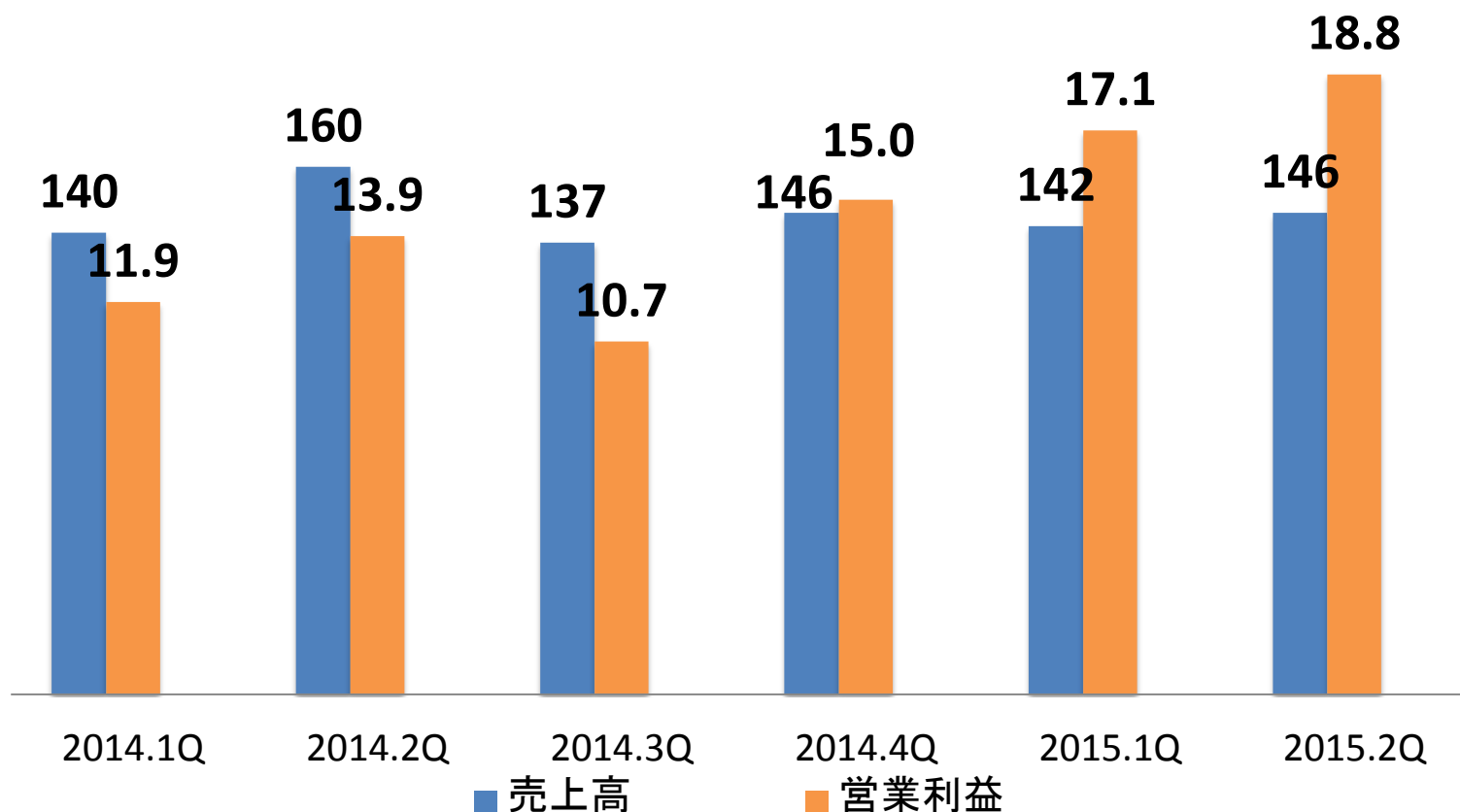
(億円)



## 6. 業績推移 ( 四 半 期 )

### ライフアメニティー

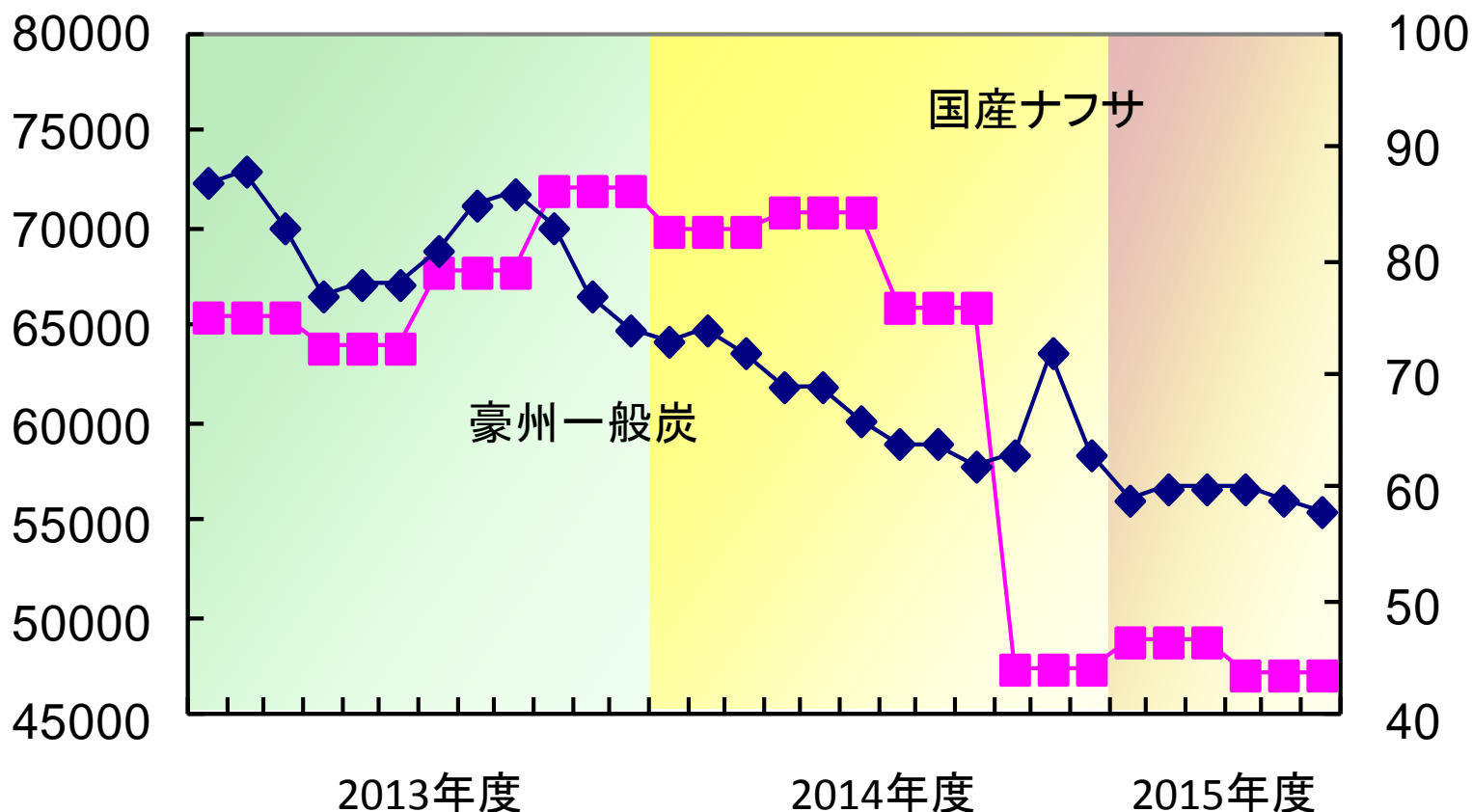
(億円)



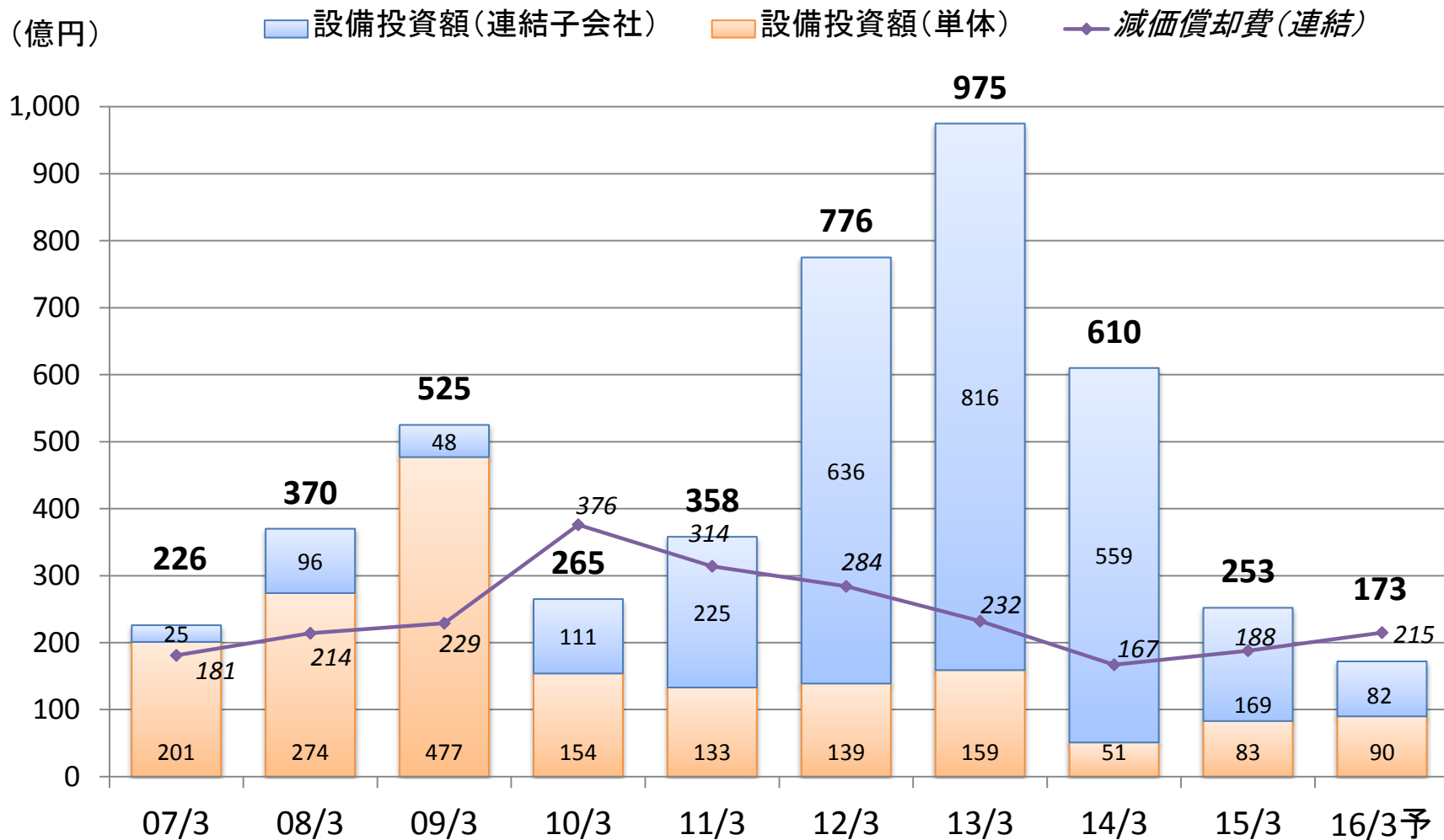
# 7. 主要原燃料価格推移

国産ナフサ価格  
(円/kl)

豪州一般炭スポット価格  
(\$/トン)

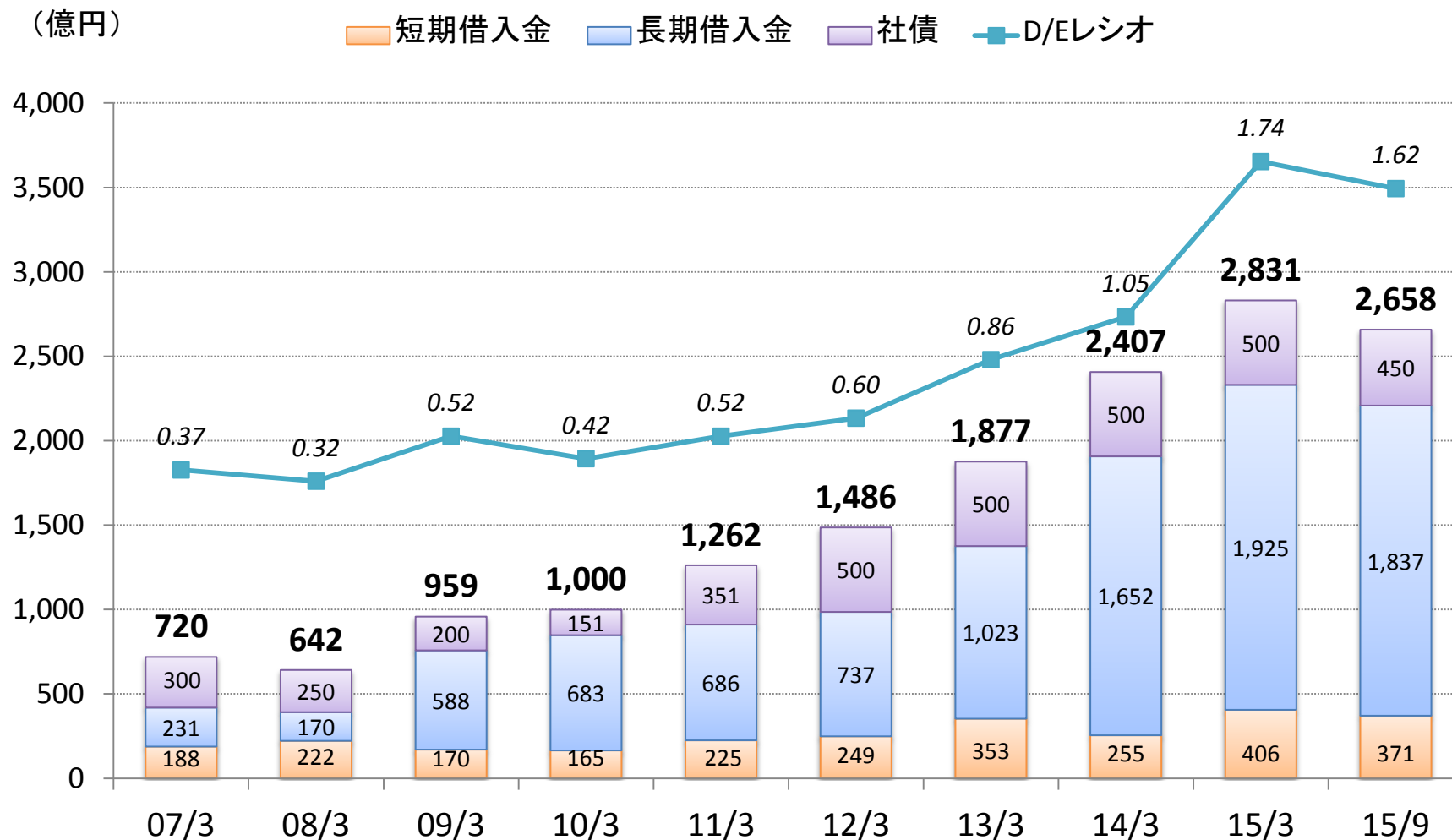


# 8. 設備投資額・減価償却費推移



# 9. 有利子負債残高推移

連 結



# 10. 業績予想修正(上期・下期) 連結(前回予想比)

(億円)

	2016年3月期予想(7/31公表)			2016年3月期予想(10/30修正)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,480	1,610	3,090	1,491	1,569	3,060
営業利益	55	125	180	75	125	200
経常利益	25	95	120	52	88	140
親会社株主に帰属する 当期純利益	5	55	60	27	113	140
1株当たり純利益(円)	1.44	15.81	17.25	8.00	32.25	40.25
為替(円/\$)	123	125	124	122	120	121
国産ナフサ価格 (円/kl)	50,300	51,500	50,900	48,000	40,000	44,000

4 補足資料

# 10. 業績予想修正(上期・下期)

セグメント別(前回予想比)

(億円)

	2016年3月期予想(7/31公表)						2016年3月期予想(10/30修正)					
	上期		下期		通期		上期		下期		通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	440	20	460	40	900	60	440	36	430	39	870	75
特殊品	280	△25	370	15	650	△10	267	△29	363	14	630	△15
セメント	400	25	410	30	810	55	425	22	415	38	840	60
ライフアメニティー	290	30	290	30	580	60	289	36	291	24	580	60
その他	270	20	280	25	550	45	267	25	283	25	550	50
計	1,680	70	1,810	140	3,490	210	1,691	90	1,779	140	3,470	230
セグメント間 消去・ 全社費用	△200	△15	△200	△15	△400	△30	△199	△15	△211	△15	△410	△30
連結決算	1,480	55	1,610	125	3,090	180	1,491	75	1,569	125	3,060	200

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(参考)

トクヤマレーシア	40	△69	56	△43	96	△112	36	△64	60	△48	96	△112
----------	----	-----	----	-----	----	------	----	-----	----	-----	----	------

#### 4 補足資料

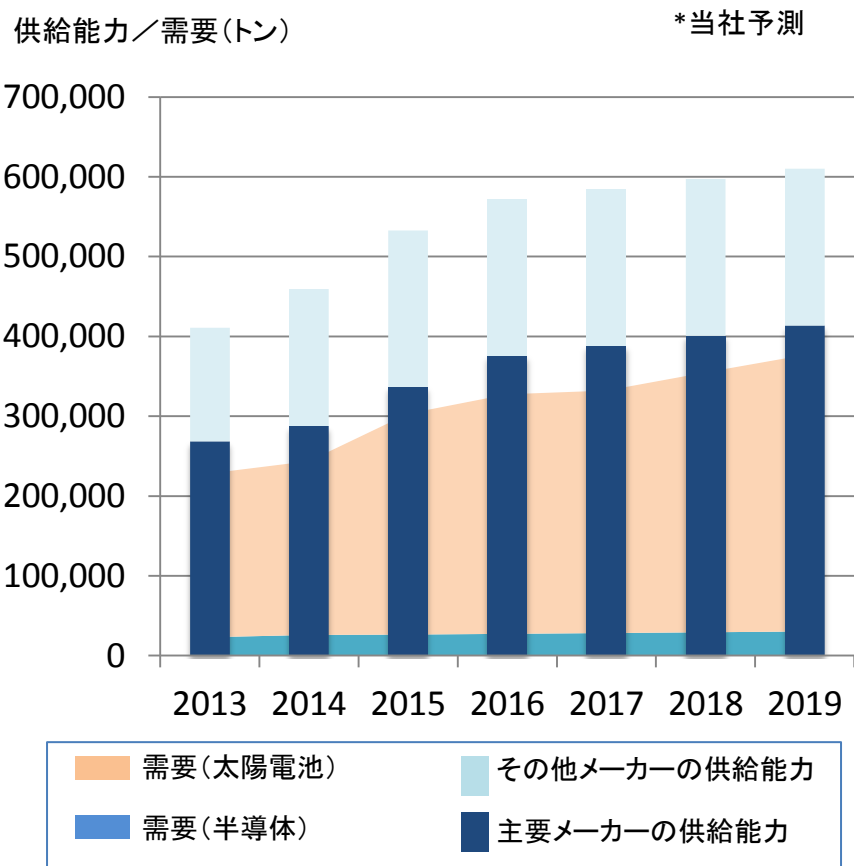
## 11. 主要グループ会社売上高

会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高(百万円)	
				14年9月期	15年9月期
トクヤマ通商(株)	セメント・生コンクリート、各種建設資材の 販売	95	100	10,616	10,931
サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	1,600	100	9,522	8,868
新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	2,000	71	11,317	8,523
関西トクヤマ販売(株)	生コンクリート、各種建設資材の 販売	80	100	5,172	8,223
トクヤマ・セントラルソーダ(株)	ソーダ灰・塩化カルシウムの仕入販売	10	65	—	6,951
(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設資材の 販売	40	100	5,223	5,547
(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及び 関連システムの販売	578	40	4,343	5,075
(株)エクセルシャノン	プラスチックサッシの製造販売	495	100	3,194	3,381
徳山化工(浙江)(有)	乾式シリカ、TCS、STCの 製造販売	377 百万元	100	2,835	3,273



# 12. 多結晶シリコン市場動向

## 多結晶シリコンの需給予測



(注1) 主要メーカーは、IHSのTier1メーカー  
 (注2) 需要は、IHSを基に、当社予測

### 今後の見通し

#### <半導体向け需要>

◆モバイル機器の需要拡大等で年率3-4%程度の増加が見込まれる

#### <太陽電池向け需要>

- ◆COP21でのCO2削減に関する新たな枠組みが追い風となる
- ◆欧州を始めとする一部の国・地域で減速傾向が見られるものの、中国、米国、インドを始めとする多くの国・地域で積極的な導入政策等による成長が見込まれ、年率10%程度の需要拡大が見込まれる

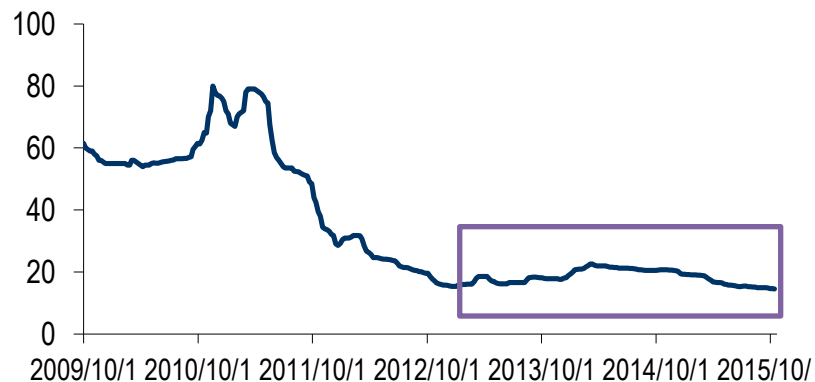
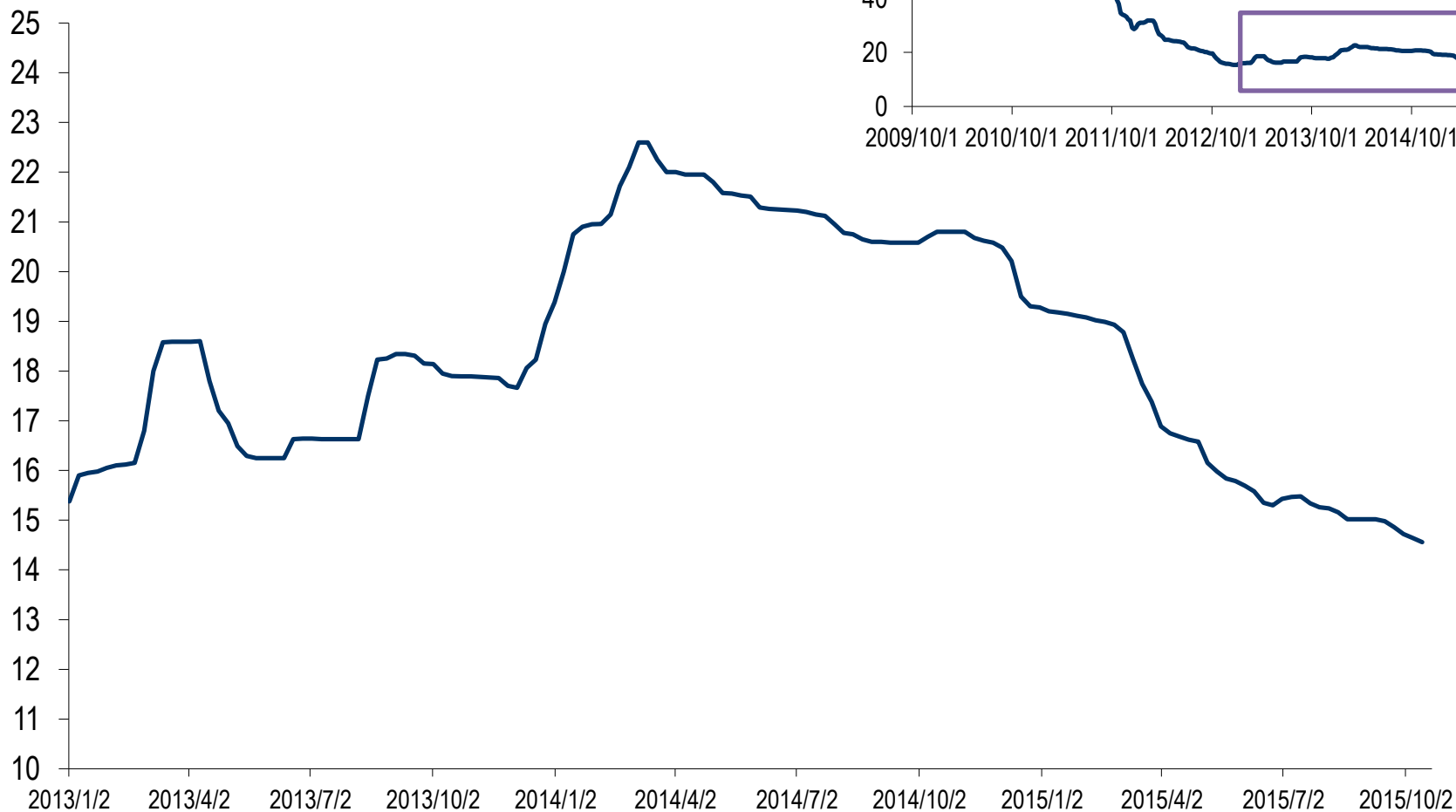
#### <供給サイド>

◆当面供給能力過剰の状況が続く。コスト競争力が生き残りのカギとなる

# 12. 多結晶シリコン市場動向

太陽電池用多結晶シリコンのスポット価格推移

(US\$/KG)

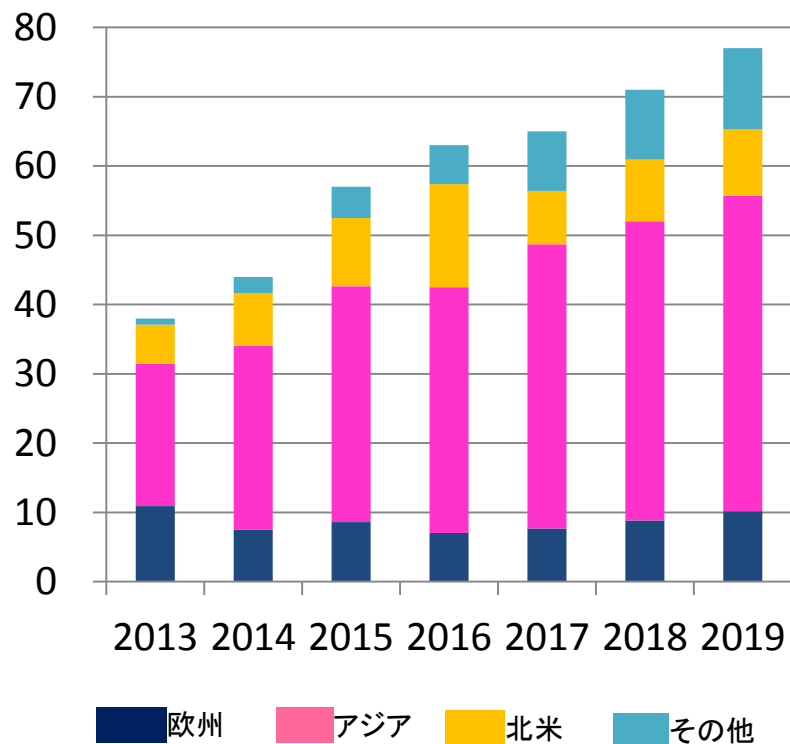


出典: PV insights

# 13. 太陽電池市場動向

地域別太陽電池導入量予測

単位:GW



(注)IHS Market Tracker (PV Integrated) Q3 2015のデータ等を基に当社予測

## 各国の状況

### <中国>

- ◆ 2017年までの累積導入目標を70GWに設定
- ◆ これまでの発表での2015年導入目標17.8GWに加えて、導入量を5.3GW拡大すると発表。拡大分は16年上期までに系統連系される見込み。

### <日本>

- ◆ 2012年7月の現行固定価格買取制度の導入以降、太陽光発電の導入量が急増。
- ◆ 2015年上期の導入量は5.4GW(昨年同期4.0GW)
- ◆ 経産省がまとめた「長期エネルギー需給見通し」における、2030年度の望ましい電源構成は太陽電池7%(約64GW相当)

### <インド>

- ◆ モディ政権は2022年までに100GWの導入目標を表明
- ◆ 新たなクリーン・エネルギー目標(2030年の再エネ比率40%:太陽電池250GW相当)を承認する方針。

### <米国>

- ◆ 様々な太陽光発電の普及政策が存在し、市場拡大を後押ししている。特に、大規模太陽光発電市場では、州レベルでの政策が市場を牽引

### <欧州>

- ◆ 政策による支援縮小等の影響により、2014年も太陽光発電市場はやや縮小した。2015年は4年ぶりに需要が回復すると期待される。

# 本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

Chemistry with a heart

**TOKUYAMA**

